

平成 27 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

JFK（日本の福祉を考える気仙沼若手の会）

【設立年月日】2012 年 12 月 22 日

【授賞理由】

震災を機に単に復興を目指すのではなく、震災前よりもよりよい福祉システムを構築すべく職種の垣根を越えた協働の団体として福祉の地域づくりに貢献しています。これらの認知症ケアに対する啓発活動は、多くの人々に心のやすらぎをもたらすだけでなく新たな希望をもたらすものと思われます。

【団体概要】

東日本大震災以降、認知症高齢者対策は一刻の猶予もない事態であり、気仙沼市の動向を待つばかりでは現状を変えることはできない、市民が動けば気仙沼が変わるかもしれないと考え、2012 年 12 月に病院・施設等の多職種で地元の若者を集い、職場や立場の垣根を越えた有志の団体を立ち上げた。JFK は Japan Fukushi Kesennuma の略名であり、ジョン・F・ケネディ大統領の「各々が自分に問いかけてほしい、国が何をしてくれるかではなく、国の為になにができるかを」という就任演説から国を気仙沼に変えて「自分たちが気仙沼になにができるかを考える」ことをコンセプトにしている。メンバーは認知症介護指導者、認知症ケア上級専門士、社会福祉士、看護師、介護支援専門員、保健師、介護福祉士、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士の資格取得者で、それぞれの職場では役職を持ち、人材育成を担うリーダー役の中堅世代で構成。発足は間もないが、会の基盤となる人と繋がりとは平成 19 年度からの 2 年間、認知症地域支援体制づくりの取り組みを通して協議し、行動を共にしてきた仲間との出会いから始まっている。震災を経験して仲間同士の結びつき、気仙沼の福祉復興への思いは確固たるものになり、現在の JFK 発足にいたった。JFK は「気仙沼を福祉のまちにしたい」という共通した目標に向かって、それぞれの職場の壁や立場の葛藤を感じながら、それ乗り越えていく覚悟を持った「有志の会」である。

【事業活動】

認知症の方だけではなく、高齢者のケアにおける優れた学識と高度なケア技術を習得し気仙沼に貢献すること。日本の福祉における喫緊の課題について協議し、その中で気仙沼が福祉のまちになるために必要なシステム構築と人材育成を目指す、のちに気仙沼の福祉システムとして全国への発信を目指すことを目的にして、以下の 3 つを大きな活動計画とした。

- ①会員の知識・技術向上の自己研鑽活動
- ②認知症の啓発啓蒙活動
- ③認知症関連地域勉強会活動

【業績および功績】

東日本大震災後より気仙沼市では若い世代の流出により人口減少、高齢化率は 33.1%と加速。10 年後には 41.7%と推計。今後の超高齢化社会に伴って独居や高齢者世帯が増加していくにも関わらず、それを支える介護に携わる若手の人材不足は深刻。しかし、「人がいないから何もできない」と嘆いてばかりでは意味がない。今、過酷な介護現場の状況に葛藤しながらも気仙沼を福祉まちにしたいと夢を持ち、「介護の質」を高めようと、福祉のレベルを上げようと志を持って頑張っている地元の若者達がいることを様々な活動を通して、地域に、全国に発信していく役割がある。地元の若者が福祉にやりがいを持って仕事をしている姿、それを応援している地域があることを全国発信していくことで気仙沼に魅力を感じて、ここで働きたい、学びたい、生活したい、介護してもらいたいと思える人達が集まってくることに期待している。

活動をとおして、①習得した知識と教養、技術はそれぞれの職場や地域の人材育成の場で伝承し、介護の質を向上させる取り組みに繋がっている。②認知症サポーター養成講座と地域勉強会は発足より 40 回以上実施、延べ約 1,300 名の認知症サポーター、および認知症の良き理解者を養成。また、継続的に地域住民と関われるように認知症をシリーズで学べるような企画をすることで、認知症への関心度も高くなり、より深く学べるような内容を求めてくる傾向に変化。JFK そのピンポイントなニーズに応えることができる強みがあり、最近は口コミで知った地域住民からの要請が多い。③共通理念、哲学を持って認知症ケアを考え続けることを専門職に伝承していくことで、これまでの業務中心のケアを振り返り、できる限り本人の立場に添ったケアを推進していこうとする取り組みへと変化。少しずつだが『地域資源』として評価を得てきている。

今後も災害公営住宅、自治体、仮設住宅、建設業、銀行、専門職などを対象とした継続的な認知症講座を実施していき、地域力、福祉力の回復に努めていく。また、人材育成と離職を防止するためのリーダーを養成。専門職を中心としたカフェを JFK がコーディネートして企画し、横の繋がりを強化していく。さらに、これからの若い世代に介護の魅力を伝えていけるような取り組みを検討していきたい。最後に気仙沼では高校生対象の講座は実施してきているが、小中学校への講座実績が少ない。これまで地域包括支援センターと協働で教育委員会や学校長会へ出席し、小中学校への認知症サポーター養成講座企画を依頼しているが、未だ企画できていない。引き続き教育委員会へアプローチして実現を目指す。